

新刊案内

歴史的な大規模土砂災害地点を歩く そのII

著者：井上 公夫 (砂防フロンティア整備推進機構 専門研究員)



発行所:丸源書店 定価:6,000円(+税) 2019年8月20日 発売

(B5判, オールカラー, 308p.)

自然災害列島の砂防関係者、
理学・工学・環境科学、
全国市町村の防災関係者に
おすすめする



関東地震による土砂災害分布図 (井上, 2013)

大正12年(1923)9月1日の関東地震の震源域は、神奈川県から千葉県南部であったため、神奈川県内の被害は極めて大きく、103ヶ所、死者・行方不明者945人+139人にも達しました。神奈川県西部で37ヶ所、650人+74人、同県東部で66ヶ所、295人+65人が亡くなっています。横浜市内でも27箇所、68+60人が亡くなっていますが、火災による横浜市の死者24,646人の中には、地震後の延焼によって崖崩れから逃げられずに、亡くなった人も多いと想定されます。

右上図は、関東地震直撃と震後降雨(9月12~15日の台風による集中豪雨)による土砂災害の分布を示しています。山崩れ激甚地帯や山崩れ多大地帯(丹沢や箱根地区)は、崩壊や土石流が多発して荒廃した状況になりました(「コラム37~40」)。▲は「びやく」と呼ばれる土砂災害地点で、現在ではほとんど死語となっていますが、地元で聞くと脈々とこの用語は生きています(コラム41~43)。

本書では筆者の今までの50年間の調査・研究結果から、日本各地で起こった歴史的な大規模土砂災害の事例を紹介し、地域住民が激甚な被災に対応し、どのように復興に努力してきたかを説明します。

注文カード	JRC	店名	丸源書店 (株) JRC 人文・社会系専門流通センター TEL 03-5283-2230 FAX 03-3294-2177		冊	
			書名	歴史的な大規模 土砂災害地点を歩く(そのII)		定価 6000円 本体価格 6000円+税
			ISBN	ISBN978-4-9904459-6-6 C3044 ¥6000E		
			書名	歴史的な大規模 土砂災害地点を歩く(既刊)		定価 6000円 本体価格 6000円+税
			ISBN	ISBN978-4-9904459-5-9 C3044 ¥6000E	冊	
			丸源書店 電話・ファックス 042-493-1653			

ご注文は(株)JRCへ 電話 03-5283-2230 FAX:03-3294-2177

『歴史的大規模土砂災害地点を歩く』(そのⅡ)

目次

推薦の辞 海堀 正博	iii
はじめに	v
コラム 31 天正十三年(1586)の天正地震による土砂災害	1
コラム 32 明治 24年(1891)の濃尾地震直撃による土砂災害	16
コラム 33 濃尾地震後の豪雨による土砂災害	29
コラム 34 富士川支流・大柳川における天然ダムの形成と災害対策	42
コラム 35 姫川左支・浦川の稗田山崩れ(1911)と天然ダムの形成・決壊	51
コラム 36 豪雨(1914)による安倍川中流・蕨野の河道閉塞と静岡市街地の水害	66
コラム 37 関東大震災(1923)による横浜の土砂災害—9月1日のプールの逃避行ルートを歩く—	76
コラム 38 関東大震災(1923)による神奈川県東部の土砂災害—横須賀地区と浦賀地区の土砂災害地点を歩く—	91
コラム 39 関東大震災(1923)による丹沢山地の土砂災害—秦野駅から震生湖周辺の土砂災害地点を歩く—	105
コラム 40 関東大震災(1923)による小田原市の土砂災害—根府川・白糸川流域の大規模土砂災害地点を歩く—	120
コラム 41 伊豆大島・元町の土砂災害史と「びやく」	134
コラム 42 東京都と山梨県の土砂災害を示す「びやく」	148
コラム 43 神奈川県・静岡県・千葉県の土砂災害を示す「びやく」	162
コラム 44 カスリーン台風(1947)による土砂災害地点を歩く	176
コラム 45 長野県西部地震(1984)による御岳崩れと土石流	188
コラム 46 広島市安佐南区・八木地区の災害伝説と大正 15 年(1926)災害	203
コラム 47 広島周辺の枕崎台風 (1945) による土砂災害地点を歩く	216
コラム 48 大分県日田市大山町山際地すべり(1987)と災害関連対策	225
コラム 49 富士川右支小武川・ドンドコ沢の巨大深層崩壊と岩石なだれ(887)	237
コラム 50 1991年ピナツボ火山の巨大噴火後 28年間の地形変化	259
[付録 1] 「いさぼうネット」コラムの作成とアクセス状況	285
[付録 2] 編集作業を行った冊子, 論文・報文など	290
[付録 3] 自然災害などを題材とした小説の著者・書名	295
あとがき—謝辞にかえて—	298
索引	299

『歴史的大規模土砂災害地点を歩く』(既刊)

I 部 日本の歴史的大規模土砂災害

II 部 歴史的大規模土砂災害地点を歩く

コラム 1 寺田寅彦『天災は忘れられたる頃来る』	コラム 15 1502年の姫川流域・真那板山の崩壊と天然ダム
コラム 2 河道閉塞による湛水(天然ダム)の表現の変遷	コラム 16 1714年の信州小谷地震による姫川・岩戸山の天然ダム
コラム 3 八ヶ岳大月川岩屑なだれによる天然ダムの形成(887)と 303日後決壊	コラム 17 豪雨(1757)による梓川上流・トバタ崩れと天然ダム
コラム 4 寛文二年(1662)の近江・若狭地震と町居崩れ	コラム 18 天明三年(1783)の浅間山天明噴火と鎌原土石なだれ
コラム 5 イタリア・パイオントダム(1963)の被災地を訪ねて	コラム 19 天明三年(1783)の浅間山天明噴火と天明泥流
コラム 6 1707年富士山宝永噴火～長期間に及ぶ土砂災害～	コラム 20 善光寺地震(1847)による土砂災害
コラム 7 1792年の島原大変肥後迷惑	コラム 21 善光寺地震(1847)による犀川の岩倉山天然ダム
コラム 8 高田地震(1751)による日本海側の無数の大規模土砂災害	コラム 22 飛越地震(1858)による土砂災害
コラム 9 高田地震(1751)による名立崩れと追立山の巨大地すべり	コラム 23 飛越地震時の薫崩れと天然ダム決壊洪水
コラム 10 日光・大谷川流域の地形特性と土砂移動特性	コラム 24 天保五年(1834)の富士山の大規模雪代災害
コラム 11 寛文二年(1662)の日光大災害	コラム 25 石打の大規模地すべり(1176)と松之山町湯本地すべり
コラム 12 1707年の宝永地震による仁淀川中流・舞ヶ鼻の天然ダム	コラム 26 安政東海・南海地震(1854)による土砂災害
コラム 13 1707年の宝永地震と半年後の豪雨による高知県東洋町の	コラム 27 周防大島で発生した 1886年の激甚な土砂災害
コラム 14 1707年の宝永地震と富士川・下部湯之奥の天然ダム	コラム 28 明治 22 年(1889)紀伊半島豪雨による土砂災害
	コラム 29 明治 25 年(1892)に四国東部で発生した高磯山と保勢の天然ダム
	コラム 30 寛政西津軽地震(1793)による追良瀬川上流の天然ダム